

古城 ネッカー河（ドイツ）

人の希いを湛えながら、沈める鏡は
私に囁きかけてくる、或閉ざされた心を

川は右へ蛇行し、バスもそれに添って走る
流れているとも思われぬ水を追って

こぼれるような光の粒に目を細めて、僕の瞳は
かすかな揺らめきの中に見出した一言を呟く

消えてはきらめく希いのうつろいを映して
今も変わらずに微笑する川のほとりに寄り添う人の姿

半身を^{ひかり}陽光の中に、半身を影の中に置き
うつむいて音もなく歩く水と人を見下ろして
城は遠い丘の上、年老いた眼差しを閉じている

温かな温もりの充満が映像を印象と変え
ぼんやりと霞んで線を点の列に変え
呟いたばかりの一言さえ光の粒となっではじけ散る

(1984.3.28)